86 仮勘定に関する説明として最も適切でないものはどれか。

a） 仮勘定とは正式な会計処理までのつなぎとして使われる勘定である

b） 仮受金とは、現金等を受け取ったが内容が未確定である場合に計上する勘定科目である

c） 仮払金は内容が別途把握されていれば、特に適正な勘定科目に振替える必要はない

d） 建設仮勘定は建設が完了すると、それぞれ該当する有形固定資産の科目に振替えられる

87 月次決算について述べた説明文のうち、最も適切でないものはどれか。

a） 月次決算は経営管理の目的で実施するため、法律の定めはない

b） 月次決算の積み上げが本決算となることより、本決算を実施するための準備の位置付けとなる

c） 月次決算により月ごとの経営数値が把握され、業績管理や問題点等への対応などが実施される

d） 月次決算は定められた法規に基づいて行われる

88 一般的に月次決算報告資料を作成する際に実施する作業として、 最も適切でないものはどれか。

a） 対予算分析

b） 問題点把握と改善施策の検討

c） 開示資料の作成

d） 対前年同期実績分析

8　月次業績管理　8.1　月次決算実施　正解：c

仮勘定とは正式な会計処理までのつなぎとして使われる勘定科目で、「仮受金」・「仮払金」のように、収入支出において処理すべき内容や金額が不明のため、一時的に使われる勘定や、「建設仮勘定」や「ソフトウェア仮勘定」のように建物や構築物等の有形固定資産やソフトウェアが未完成の時期に本来の勘定科目を使用するとかえって煩雑になるために一時的に使われる勘定科目がある。いずれも一時的なものであり本来の勘定科目に振替えられなければならない。

したがって、正解は（c）となる。

8　月次業績管理　8.1　月次決算実施　正解：d

本決算は会社・株主及び債権者のため、会社法・金融商品取引法・法人税法等の規定に基づき実施されるのに対し、月次決算は経営管理の目的で実施するため、法律の定めはないが、月次決算の積み上げが本決算となることより、本決算を実施するための準備の位置付けとなる。こうした月次決算を通じ月ごとの経営数値が把握されることにより、業績管理や課題問題点等への対応などが実施される。

したがって、正解は（d）となる。

8　月次業績管理　8.2　月次業績検証　正解：c

一般的に月次決算を通じて、予算／実績の比較分析や前年同期実績との比較分析などが、部門別・製商品別などの切り口で行われ、そうした分析を通じて問題点が把握でき、改善施策等が検討される。月次決算は法律的な定めがなく、一般には経営管理の目的で実施されているので、開示資料の作成は行われない。

したがって、正解は（c）となる。